

■製品仕様	
販売名	皮膚良性血管病変治療用レーザー装置 Vbeam II
レーザーの種類	フラッシュランプ駆動式VPLSダイレーザー
波長	595 nm
パルス幅	0.45~40 msec
照射スポットサイズ	Φ5, 7, 10, 12 mm
最大照射エネルギー密度	15 J/cm ² (5 mm spot)
	15 J/cm ² (7 mm spot)
	10 J/cm ² (10 mm spot)
	7 J/cm ² (12 mm spot)
繰り返しパルス回数	最大 1.5 Hz
導光方式	レンズ結合型光ファイバー方式
冷却法	外部冷却方式
定格電圧 周波数	単相 200 V, 50/60 Hz
電源入力	4000 VA
寸法	40 cm (W) × 99.5 cm (D) × 110 cm (H)
重量	132 kg
医療機器承認番号	22800BZX00358000
一般的名称 (MDNコード)	色素レーザー (36043000)
クラス分類	クラスIII (高度管理医療機器、設置管理医療機器、特定保守管理医療機器)

Vbeam II



Vbeam II

皮膚良性血管病変治療用レーザー装置



Science. Results. Trust.

■付属品	
薬剤の種類	1, 1, 1, 2-テトラフルオロエタン
ダイナミッククーリングデバイス (DCD)	スプレー時間設定範囲 10 - 100 msec ディレイ時間設定範囲 10 - 100 msec
保護メガネ	> ODS-2 (波長 592 - 596 nm)



■ハンドピース

*アクセサリ類は予告なくデザイン変更される場合があります。予めご了承ください。



CANDELA

【製造販売元】 シネロン・キャンデラ株式会社
 〒104-0061 東京都中央区銀座 6-8-7 交詢ビル 8F
 TEL. 03-3289-2077 FAX. 03-3289-2160
 ■カスタマーコールセンター 0120-954-760

【支店】 東京・名古屋・大阪・福岡
 【営業所】 札幌・仙台・岡山
 【サービスセンター】 埼玉・神奈川・千葉・神戸
 【物流センター】 〒143-0006 東京都大田区平和島 6-5-1
 東京流通センター C棟 Cブロック 近鉄ロジスティックシステム内
 FAX. 03-5763-7200

【製造元】 Candela Corporation
 530 Boston Post Road, Wayland, MA 01788, USA
 TEL. +1-508-358-7400 FAX. +1-508-358-6602

CANDELA



血管腫治療のゴールドスタンダード

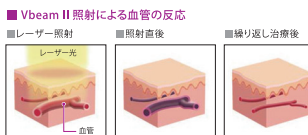
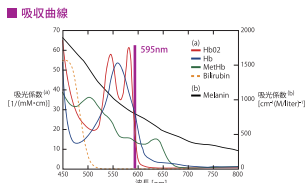
Vbeam II は、Vbeam の基本性能を引き継いだハイパフォーマンスモデルで、あらゆる面において操作性が向上しています。サブパルス照射による利便性が増し、より大口徑の照射スポットを標準使用することで治療時間が短縮されます。



How to treat vessels with Vbeam II

Vbeam II から発振される波長 595 ナノメートルのレーザー光には、血液中のヘモグロビンに選択的に吸収されやすいという大きな特徴があります。血管病変部では、ヘモグロビンがダイレーザーの光エネルギーを極めて短時間に吸収・熱変換することにより、血管は内壁から熱破壊され

凝死を起こします。その後、血管内皮細胞が線維化していくことで血管自体が閉塞していきます。ヘモグロビンが光エネルギーを吸収して生じる放射熱を利用しています。



■ダイレーザー照射直後の組織の状態

■585nm ダイレーザー照射直後

■595nm Vbeam 照射直後

自由中の赤血球が凝縮しているが、血管壁は壊滅性が保たれている (Factor 壊滅性)

自由中の赤血球が凝縮しており、血管壁の壊滅と自由の漏出が見られる (Factor 壊滅性)

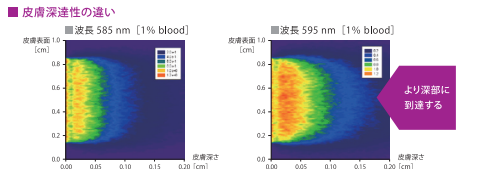
■レーザー治療前

■Vbeam 治療後

東京女子医科大学形成外科 大久保 麗 先生

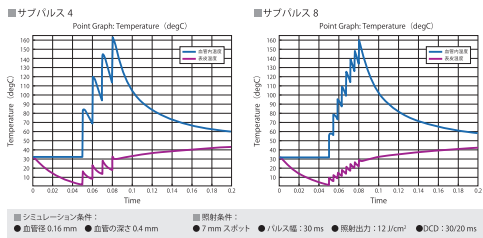
Four Major Advantages of Vbeam Technology

1 Wavelength 深達性に優れた波長
 Vbeam II のレーザー波長 (595nm) は、従来のダイレーザーに比べて皮膚深達性に優れており、より深層の血管や口径が太い血管にも有効です。また血管の中心部にまで光エネルギーが伝わりやすくなっています。



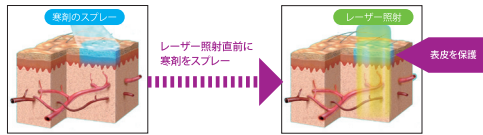
2 Unique Micro-Pulse Design 副作用を抑える 8つのサブパルス構造

Vbeam II のパルス幅は、8つのマイクロパルス (サブパルス) から構成されており、紫斑形成やダウンタイムを最小限に抑え、ターゲットに均一に十分な熱損傷を与えることができます。



3 Dynamic Cooling Device 優れた皮膚冷却機能

ダイナミッククーリングデバイス (DCD) はカリフォルニア大学アーバイン校にて研究開発された優れた皮膚冷却システムであり、Vbeam II に内蔵させることで、レーザーパルスに同期し、レーザー照射直前に -26℃の寒剤を吹き付けて表皮を保護します。



4 Energy Output Versatility - Large Spot Size Delivery 高出力・大口徑スポットサイズ

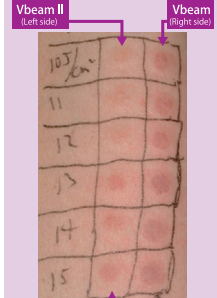
Vbeam II のスポットサイズは、標準 10mm から最大 12mm まで対応できる為、広範囲の症例でも効率良く治療時間を短縮することができます。



Clinical Evidences

Vbeam II vs. Vbeam 紫斑形成の閾値の違い

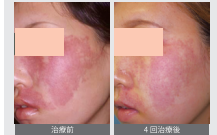
- 照射 1 回照射の枚数
- 照射条件: ●7mm スポット ●パルス幅: 10 ms ●照射出力: 10-15 J/cm²



Vbeam II のほうが、サブパルスが多くより均一で、紫斑が生じにくい

Photo courtesy of Dr. Brian Zekskoon

毛細血管畸形 (単純性血管腫)
 ●7mm スポット ●パルス幅: 1.5 msec ●照射出力: 11-12 J/cm² ●DCD: 40/20 msec



乳児血管腫 (海状血管腫)
 ●7mm スポット ●パルス幅: 20 msec ●照射出力: 11-12 J/cm² ●DCD: 40/20 msec



毛細血管拡張症
 ●7mm スポット ●パルス幅: 10 msec ●照射出力: 12 J/cm² ●DCD: 40/20 msec

